

# ミュージアムロードの「晴(ハレ)と曇(ケ)」営み — ひとり一人が主役となり、表現の余白を取り戻す道 —

※「表現の余白」とは、つくり込み過ぎず、関わる人が自由に意味や行動を足せる“あそび”を残しておくこと。そのことにより自然な参加や新しい発想につながることを意図する。

## 【コンセプト】

ミュージアムロードにおいて、芸術や特別な体験となる非日常を「ハレの日」、何気ない日々の日常を「ケの日」として両方を大切に、地域に暮らす人、通勤する人、学校に通う学生などひとり一人が主役になるれる大小さまざまに“表現できる場”とする。このまちに関わる人がつながりここを出発点に「このまちに住んで良かった！働いて良かった！」と未来につながるまちを育てていく。

## 【はじめに】

各美術館という強い拠点がある一方で、文化体験が建物の外（道路・広場）に広がらず「美術館に行く人」と道路が「移動のための空間」になっておりいるという課題があるなか、本提案にあたり、私たちは実際にミュージアムロードを歩き、沿道にある20店舗以上の利用や、地域に暮らす人、働く人へのヒアリングを行いました。そこで見えてきた日常の声や使われる方を起点に、関わる多様な方々が幸福感を感じることを（SWGs）を大切に考えました。

## 【3つ考え方】

1. 「つながり」  
作品を鑑賞するだけの道ではなく、人の行為・活動・関わりそのものが表現となり、それらが積み重なっていくことで、まちの風景を形づくることを目指す。その為、本提案では「歴史・文化・暮らし」に関する要素を積極的に取り入れ「ハード面」「ソフト面」の観点より提案を行う。

2. 「循環（アート・自然）」  
完成された作品であっても、同じ場所に長く置かれることでやがて風景の一部となり、日常の中で意識されにくくなってしまふ。そこで本提案では、芸術・表現の場を「固定」するのではなく、循環させる仕組みを試みる。緑を大切にグリーンインフラの考え方、特に「水循環」を積極的に採用。

3. 「多様性（エリア・個人の特性）」  
ミュージアムロードは一言で表現されるものの、その沿道には、異なる歴史的背景、土地の成り立ち、地域の日々の営みなど大切にしている「かたち」があり。そのため今回は、北側より「Aエリア」「Bエリア」「Cエリア」と3区域に位置付け地域に寄り添った提案を行う。

●眺望を将来につなぐ  
六甲山を望む景観を守っていくことがのちの将来こもたちの財産につながる。

●流域情報  
灘駅周辺は表六甲山水系であり大きくは「六甲山水系→都賀川水系→大阪湾」の範囲となるが、当エリアは水路（みずみち）は暗渠化されている。

「土砂災害・水害ハザードマップ」  
神戸市灘区 2025年度版



- ◆ 平日の主動線（太線）  
城内通 → JR灘駅（南向きの太い通勤流）  
岩屋北町 → 阪神岩屋駅（東西・南北の通勤/通学流）  
摩耶海岸通 → 岩屋駅・灘駅（徒歩/自転車の朝夕流）
- ◆ 土日・文化回遊（中線）  
岩屋駅 → 県立美術館（観覧客）  
県立美術館 → 王子動物園（南北文化回遊）  
BBプラザ → ミュージアムロード → 王子動物園
- ◆ 生活回遊（点線）  
岩屋中町 ↔ 脇浜商店街（買い物）  
摩耶海岸通 ↔ プルメールHAT神戸（ファミリーの買い物）  
城内通 ↔ 王子公園エリア（散歩・学校関連）

- 各エリアコンセプト
- 【Aエリア① | 歴史の導入・アプローチ】  
原田の歴史や記憶をたどりながら、王子公園へと導くアプローチストリート
- 【Aエリア② | 技能と日常が交わる駅前空間】  
神戸の手仕事や技能を“見える風景”として感じられる駅前の開かれた空間
- 【Bエリア | 日常動線から賑わいの通りへ】  
通勤動線を、日常もイベントも楽しめる立ち寄りたくなる通りへ転換
- 【Cエリア | アートをめぐる生活圏の再編成】  
美術館を核に、学校や住宅地をアートでゆるやかにつなぐ生活圏づくり



# Aエリア・Bエリア・Cエリアのつながり — ハード整備・ソフト整備における統一した考え方 —

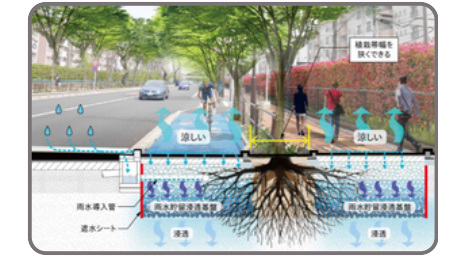
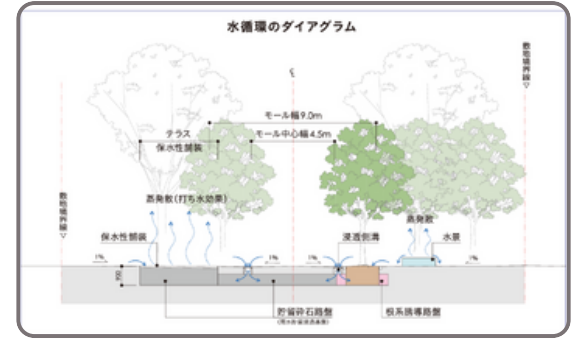
## ① 山手から続く道路舗装

南北に連なるミュージアムロードの舗装は一体性をもたせる。特に参道を意識したAエリアについては、灘駅から王子公園までは石畳風の仕様としつながり感を持たせる。B・Cエリアについては地域特性、必要とされる景観との調整を実施。

## ② まちのグリーンインフラ「街路の雨水利用による水循環」

○ 植栽基盤の考え方  
広場や広い歩道空間は、木々の緑陰の最大化を重視したまとまりある緑地（約15m角）を構成する。そのため植栽帯（植えマス）は既存の1.5倍以上に拡張。  
○ 雨水利用の考え方  
神戸ならではの坂道傾斜を活かし、流れる雨水は植栽帯を通じて樹木に供給され、地中に浸透させることにより大雨対策と植生管理を兼ねた持続可能な水循環を生み出す。雨水の流れは夏季の高温対策、景観向上にも役立つ。

○ 植栽する場合は、摩耶山より移植、マイツリーを募集  
六甲山系の摩耶山の森を守り育ててきた人々の協力を得ながら、摩耶山由来の樹木を街路樹として移植・植樹する。これらの樹木は、企業・地域・学校などが関わる「記念樹」として募集し、マイツリーの成長とともに人や地域も年月を重ねて歩んでいく



## ③ 路上に残る、みんなの記憶 — ミュージアムロード・デザインマンホール

ミュージアムロードでは、A・B・C各エリアごとに、将来、20年後、30年後の地域の姿を思い描きながら、地域の皆さんと意見を出し合い、デザインマンホールを制作します。マンホールは長く使われ続ける公共物であり、街の記憶や価値観を静かに刻む存在です。本提案では、市が一方的に決めるのではなく、地域で結成する実行委員会を中心に、ワークショップや市民投票を通じてデザインを検討します。マンホールの鋳物風合いとともに世代を超えて語り継がれる、ミュージアムロードらしい地域文化となることを目指します。

## ④ 連続性のミュージアムロード・フェス（アートの祭典）

ミュージアムロードでは、一本の道路を軸に、地域特性の異なるA・B・Cの3エリアそれぞれ、地域の特性に合わせて、時期をずらしながら、連続してひらいていくことを大切にします。

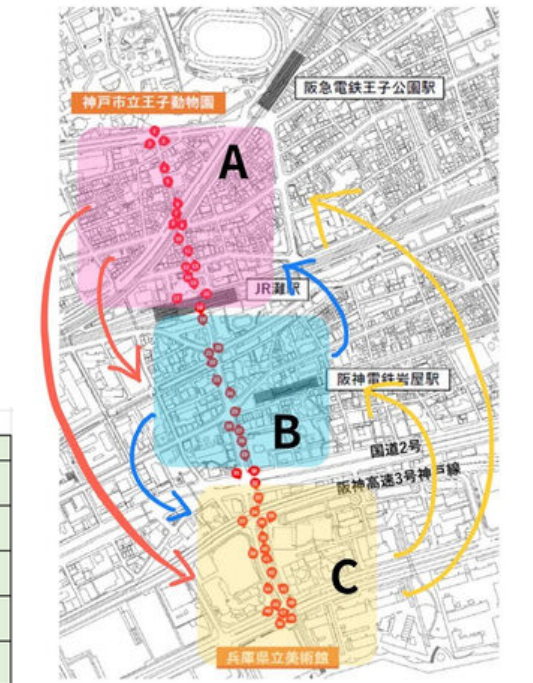
- ◆ フェス1（Aエリア）開催6月  
桜のシーズンが落ち着いた初夏に「ミュージアムロード駅前&軒先マルシェ」を開催。
- ◆ フェス3（Bエリア）開催11月  
既存の地域イベント「美かえるカラフルマルシェ」と連携し、秋の開催。
- ◆ フェス2（Cエリア）開催9月  
イベントハイシーズンにあわせ、美術館や学校、地域住民の「路上の展示スペース」を活用したミュージアムロード・アートフェスを開催。

「近くに住んでいるけれど、行ったことがなかった」地域ではよく聞かれる話であり、たとえ今回フェスの運営側や参加者、利用者として関わらなくても、街に変化が起きていることに気づき、視界に入り、認識されることを目的とする。その積み重ねにより来年度以降の参加や関心ごとへの変わっていくことを考える。

※ デザインマンホールづくりとフェス開催の位置づけ（補足）  
ミュージアムロード・フェスを、はじめから市民主体で立ち上げはとても難しいため、本提案では、フェス開催の前段として「デザインマンホールづくり」企画を実施し、地域の人が関わりやすさを育てます。

フェス開催の初期段階では、行政委託のまちづくりコンサルタントが伴走し、企画・運営の基盤づくりを支援。「面白さ！楽しさ！」を核に担い手を増やし地域主体の自立運営へ移行する流れを想定。

今後のスケジュール（案）	年	内容	段階的実装・社会実験一定着	王子公園・王子動物園予定
2026年	各イベント準備	情報収集・関係者調整 計画作成・予算申請	—	—
2027年	マンホールデザイン実行委員会設立〜テスト実施	市民・専門家参加型の企画構想 フェス開催の前段として実施	王子動物園 サバナンゾーン等完成	—
2028年	ミュージアムロード・フェス実行委員会募集	まちづくりコンサル伴走 運営体制を構築し、実装準備	—	—
2029年	第1回 ミュージアムロード・フェス開催	社会実験として実施。道路・広場空間の使い方や運営を検証	王子公園 緑の広場完成	—
2030年	第2回 ミュージアムロード・フェス開催	検証結果を反映し、地域主体による継続的な運営・定着を図る	王子公園 スタジアム・シンボルプロムナード完成	—



# エリア①

## 「歴史をつなぐ、王子公園(学園予定)へのアプローチストリート」

—再整備される王子公園と市街地を結ぶ、文化的動線の再構築—

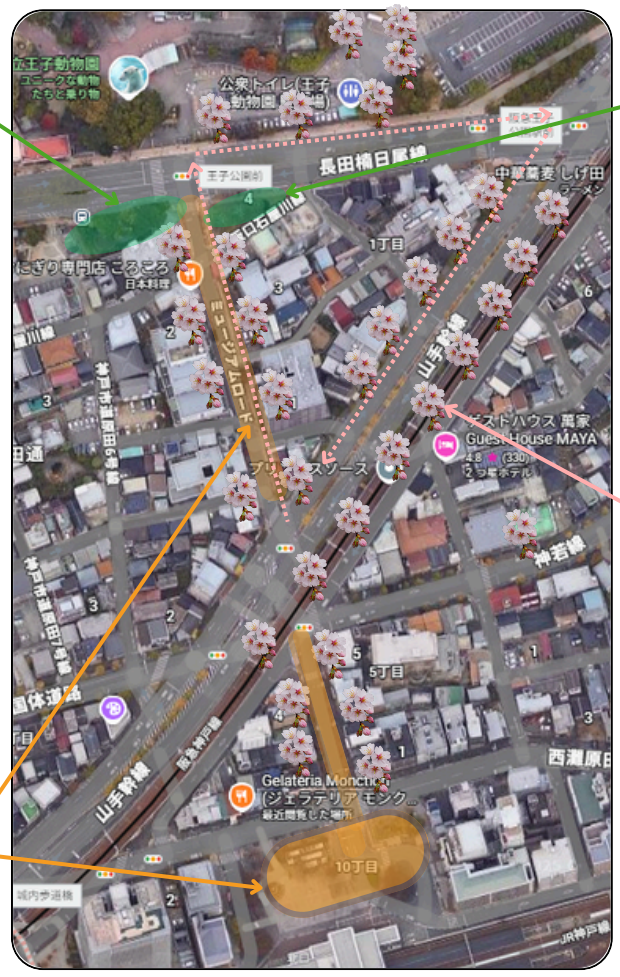
●エリアコンセプト  
JR灘駅から再整備される王子公園(動物園)までを「原田の歴史的文脈を感じながら歩くアプローチストリート」として再編する。王子エリアの成り立ちや記憶を段階的に読み取れる“導入空間”をつくる。

【課題】  
灘駅北側は人通りが多いが、立ち止まる理由・滞在する機会(きっかけ)が少ない



●王子公園へのゲート空間(西)  
「王子街公園」はその広場より奥の王子神社とのつながりを持たせ、植栽整備とあわせ広場と高床ステージを設置。イベント時のパフォーマンスが可能な空間を作る。

●駅から続く参道とする(石畳舗装)  
道路仕様は狭隘歩道の課題より、車両と歩行者が共存できるシェアードスペース型を採用。歩車道の境界線を極力感じさせない低い段差の仕様としベビーカーなど通行にも配慮する。表層は参道をイメージした石畳。材料は石材を採用するが、コスト考慮が必要な場合は対車両インロク(300×600)も検討。



- エリアの特色(A)
  - JR灘駅北側の昔ながらの住宅街。
  - 木造の戸建・長屋・中層マンションが混在。
  - 生活道路が細く、徒歩・自転車移動が多い。
- 世帯人口
  - 約2,500人/約1,400世帯
  - 平均世帯人員1.7人前後→単身・夫婦のみ世帯が多い
  - 若い共働き世帯も増加傾向だが、エリア全体としては小世帯中心。
- 高齢化
  - 65歳以上≒22~23% (神戸市平均よりやや高め)
  - “一人暮らし高齢者”の割合が比較的多い。



●王子公園へのゲート空間(東)  
「王子街道」は外周ベンチとミュージアムロード案内所が向かい合い、人が立ち止まり交わる入口の空間。木々の下には芝生スペースを作り桜の時期には近くの珈琲屋さんのテイクアウトを楽しめる仕様。

●歴史を継承する桜の街道整備  
された歴史を背景に、桜を街道の象徴として再編。また地域の方より東西の山手幹線が暗いため桜の希望があり追加。桜並木で囲む事により回遊性の向上が見込まれる。

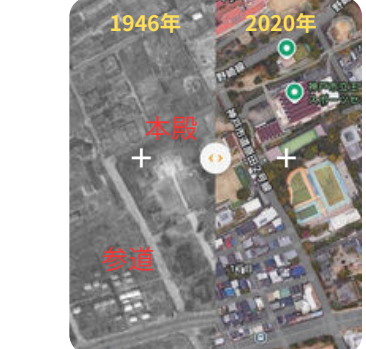


⑤ 灘駅前拱橋(土木学会選奨土木遺産)  
神戸タータンチェックと神戸市カラー白と緑を使用し背景色「千草色(10G7/2.5)ラインを向日葵色、深緑でチェック状にデザイン。



参考イメージ ※掲載ご了承済  
2025年beyond公募大賞作品  
夜間は灯りが少ない原田の森ギャラリーピロティに、六甲ミーツ・アート「ひかりの森 夜の芸術散歩」入選作品を一年間展示。会期後に撤去される作品を街なかで活かし、道行かひと、車窓からも日常的に感じられるアートとする。

王子神社(旧原田神社)由来  
現在の王子弓道場(遠的場)辺りに本殿と長い参道があり、古くから「山・水・風」の神として、また戦や武術の神様として信仰されたいた。



関西学院発祥の地 1920年代  
「原田の森キャンパス復元模型」

王子公園内容王子プールのあたりに本殿や参道があり総敷地面積は1万坪にも及ぶ

王子神社よりご提供いただいた『王子神社由緒記』によると、旧原田神社の時代この地には桜並木がありました。大正13年(1924年)、昭和天皇のご成婚を記念して約130本の桜の若木が植樹されたと記されています。言い伝えによると門前町の話も。

# エリア② (JR灘駅北 駅前広場)

## 「つくる人が主役になる、技術継承のミュージアムスペース」

— 芸術家だけでなく、すべての“作り手”を文化として扱う道 —

●エリアコンセプト  
駅前の公共空間に、神戸に根付く手仕事や技能が\*\*道に向かって開かれた“見える風景”\*\*として立ち上がるアトリエを配置する。靴づくりや包丁研ぎ、縫製など、暮らしに近い技能の作業風景がガラス越しや半屋外空間を通して日常的に感じられる設えとすることで、通勤・通学や来街者が自然と立ち止まり、覗き、回遊するきっかけを生み出す。完成した作品だけでなく、つくる過程そのものが文化体験となり、駅前空間に持続的な賑わいと神戸らしい表情をもたらす。

- 駅利用数(灘駅の影響)
  - JR灘駅: 約30,900人/日
  - 城内通は灘駅の北側に位置し、朝夕の通勤動線が最も強い。
  - 南へ向かう歩行者が集中するため、回遊導線の起点になり得る。



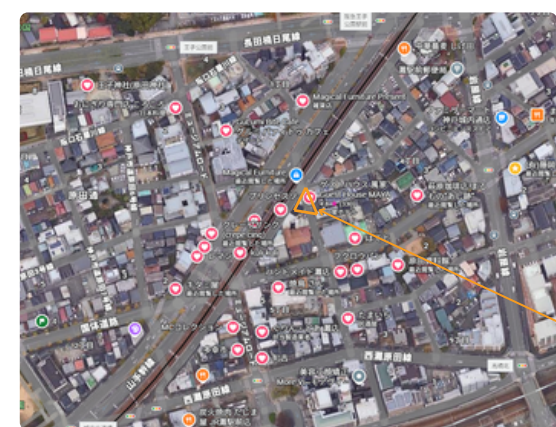
北側ミュージアムロード案内所と連携したプラットフォームの場所。運営は大学高校でアート・ダンスを学ぶ学生さんとサポート(コンサル等)によりアート活動プラットフォームの運営を目指す。日頃は広場掃除、ラジオ体操後の休憩場所として利用する。



神戸市技能職の書籍『神技(かみわざ)』に掲載される技能者の方々  
洋服仕立職や家具職など、永年の経験と熟練により修得した技能で、神戸の産業や市民生活を支える技能職者さんと地域、行政と共に作る。

○JR駅広場と合わせた軒先マルシェの開催 『ミュージアムロード・フェス1(初夏6月)』  
芸術家だけでなく、日々ものを作り、直し、売りの人たちもまた「表現者」である。当エリアは、技術を持つ一般の作り手を“文化の担い手”として可視化し、学び・実験・継承するための“開かれたミュージアムロード”とする。地域には独自に良さを持っている(表現)しているお店が点在していますが、意外と地域や他のお店の方も気になりつつ利用したことがない状況。それぞれの場所でマルシェを同時開催することで、お互いの視界に入る関係、それぞれの距離感を大切に広場と各店舗の軒先マルシェを同時開催。とは言っても、いきなりは難しいため灘駅などで実績が複数ある「とまり木マルシェ」さんへのご相談からスタート。

- 灘駅北エリアのお店
  - おにぎり専門店「ころころ」さん  
ごははは土鍋で一つ一つ丁寧に炊き上げて、精米後の米ぬかは店舗前で無料配布されフードロスにも取り組まれている。
  - 点心店「老青記」さん  
肉包焼売(ロウパオシウマイ) 専門店さん。ホットタピオカミルクティー、プーアルミルクティソフトもいただける。
  - パン屋「レマン」さん  
レジ横ではガザへの募金、子どもには駄菓子のマシュマロをプレゼントも。
  - 古美術「新井」さん  
灘駅や地域のお手伝いを半世紀以上に渡りされているお母さん。古美術として高架下にも場所をお持ちになられている。
  - 「MCコレクション」さん  
手作りのケーキ、タルト、焼き菓子多数壁面に出品者無料の展示ギャラリー有
  - ジェラート店「Gelateria Monction(ジェラテリア モンクション)」  
ジェラートの本場イタリアの世界大会で毎年入賞(2025年6位🏆)
  - 「クレープサンク(crepe cinq)」さん  
誰もが知っている美味しいクレープ店
  - 「もっこす王子公園店」さん  
毎週16-18時は「こども食堂」10月より



「原田の森ギャラリー」  
「横尾忠則現代美術館」  
「王子神社」

JR灘駅北エリアのお店

- カフェ「GuLumi Bite Cafe」さん  
中国出張の女性がイギリス大学で医療を学び、紅茶や緑茶を発酵させた腸内環境を整えるコンブチャ(Kombucha)を提供。
- カフェお隣り「アートクラシックKOBÉ」  
生け花・茶の湯他
- 「ゲストハウス 萬家」さん  
今年11/30「Magical Furniture (Present)」  
「TEAM クラフトン」「萩原珈琲店 まるもの」あし跡”さんらと連携して【SIRONOUCHI TRIANGLE】というマルシェを開催。
- 「プリンセスソース」さん  
灘区の地ソース!
- 「原田資料館」さん  
市民活動拠点・ギャラリー。「原田の森」の歴史と、震災後も受け継がれてきたまちの歩みを伝える場所。
- 「藤岡金網製作所」さん  
王子動物園のカスタマイズ獣舎などを製作細やかな対応、メンテナンスを行われ線の下の存在。



# BIア「いつもの道が、ちょっと楽しい通りとなる仕掛け」

## ●エリアコンセプト

Bエリアは、通勤・通学で多くの人が行き交う日常の動線です。この「通るだけの道」を、通勤が少し楽しくなり、思わずお店に立ち寄りたくなる通りへと育てていきます。イベント時には、仮設の屋台や各店舗の参加によって、通勤の延長ではなく、目的をもって参加したくなる場へと姿を変える。



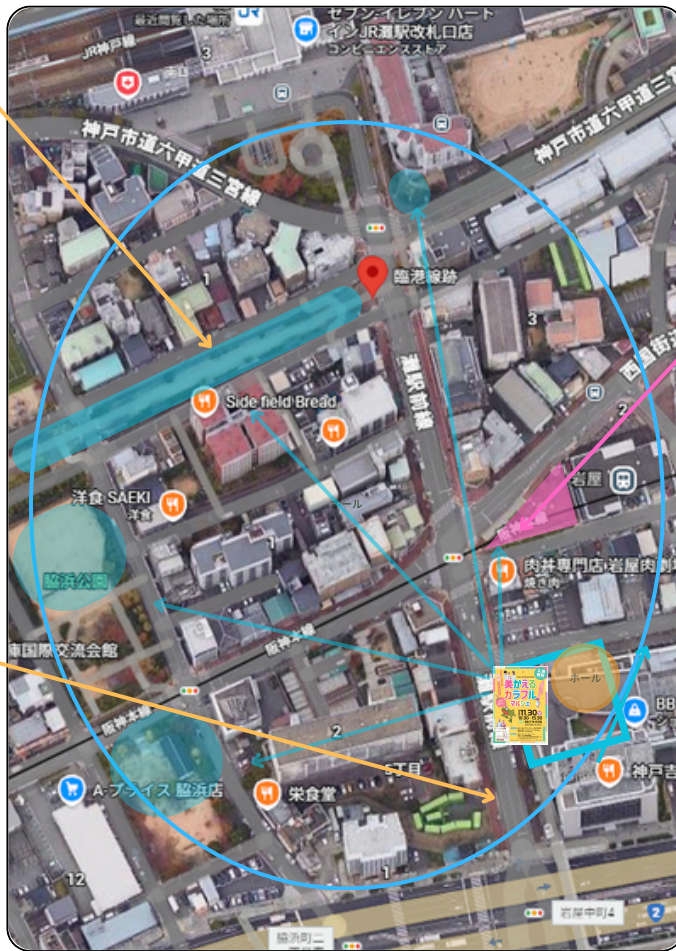
街路照明のデザイン募集  
10年更新でデザインを公募。  
※写真は村野藤吾

○「屋台の学校」ひとり一人が出展  
(安全で通り仕様の臨港線跡)

屋台のみならずプロジェクト/屋台をつくる。楽しむ。学ぶ。「屋台の学校」を開催!



広場では、一般の人や学生が表現の場として参加できる屋台作りWSから始まるマルシェを検討する。



歩道橋(国道)  
木道や人工芝生等にしてCエリアに通過したいと感じる仕様に。



●街路樹は摩耶山の木を植樹  
摩耶山の森を守り育ててきた人々の協力を得ながら、摩耶山由来の樹木を街路樹として移植・植樹する。これらの樹木は、企業・地域・学校などが関わる「記念樹」として募集し、マイツリーの成長とともに人や地域も年月を重ねて歩いていく

●ゲリラ豪雨時に斜面でピークカットを実施  
兵庫県立美術館の周辺の浸水ハザードマップ「内水反乱エリア」の対策として、歩道上に降った雨を浸透させる。  
※雨水貯留基盤層と貯留・浸透舗装(バリアフリーペイプSI等)により時間雨量400~500のピークカットが実証されている。

- エリアの特色 (B)
- 岩屋中町・北町(岩屋駅周辺)
- 世帯人口: 6,100人(北町+中町)
- 平均世帯人員: 1.8
- 高齢化率: 20~22% (丁目差が大)
- 駅利用: 阪神岩屋駅約11,200人/日(文化来訪者多)
- 特性: 生活×文化の結節。歩行者の多様性が最大

## ●MRシンボルツリー樹勢回復

(阪神岩屋駅前広場)  
広場内のシンボルツリーは樹木の樹勢回復を実施。まとまった緑陰空間を作りフェス開催時には緑陰の下に仮設ベンチを設置



参考「阪神尼崎駅前」

## ○エリア全体が賑わうイベント

『ミュージアムロード・フェス3』毎年当該エリア活性化「美かえるカラフルマルシェ」が地域とも連携した開催されているがBBプラザ建物スペースが不足しているとの話があるため、「臨港線跡」近隣「脇浜公園・自治会館」地元飲食店との共同イベントを企画。広場では、また一般の人が表現の場として参加できる屋台作りWSから始まるマルシェを検討する。



※神戸市「なだ実践ゼミ」にて地域福祉センター活性化トライアル企画「モルックでたせだい交流イベント」を予定しており、きっかけに出来ればと思っています。

# Cエリア「ミュージアム・ commons」 —美術館と学校、企業、住宅地をゆるやかにつなぐ文化の回廊—

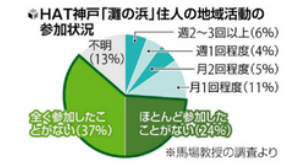
## ●エリアコンセプト

県立美術館を「核」として、周辺の小学校・復興住宅・子育て世帯を日常的なかでゆるやかにつなぐ、アートをめぐる生活圏の再編集プロジェクト。

## 【課題】

- ① 美術館が施設の中であり、文化体験が建物の外(道路・日常)に広がりにくい。道路が美術館に行く人、通勤する人などの「移動のための空間」である。
- ② 旧災害公営住宅(復興住宅)はシニアは外出頻度が低く、孤立しやすい。摩耶海岸通2丁目地区の高齢者率は36%と高い。
- ③ 小学校・子育て世帯はにとって「楽しい経路」としては不足。各学年3クラスと生徒数は多い。各拠点との関わりはそこまで多くない状況。

- 摩耶海岸通 (HAT神戸)
- 世帯人口: 6,860人/3,170世帯
- 平均世帯人員: 1.9~2.5 (1丁目はファミリー多)
- 高齢化率: 20% (1丁目) ~36% (2丁目)
- 特性: 広い歩道・海辺の滞留空間。ファミリー+高齢者
- 人流: 休日の美術館~商業~海辺の回遊が強い



くらし×防災メディア「防災ニッポン」2023/2/6掲載情報

## ●歩道空間&住宅エリアの広場イベント

『ミュージアムロード・フェス2』社会貢献事業等に積極的に取り組まれている「石光商事さんなど企業と連携して、復興住宅地の広場にてコーヒーを飲んだりSDGSフェスタの開催などを検討」※社名掲載ご了承済



## ●緑陰下の地域に開かれたアートギャラリー

歩行者が自然と立ち止まり、眺め、滞在できる「緑陰の展示空間(絵画・陶芸等)をつくる」  
・ 渚中学校・小学校・灘さくら支援学校の作品  
・ 兵庫県立美術館のシーズン展示の一部紹介  
・ 周辺住宅地の市民ギャラリー  
・ 企業展示・運営寄付募集 (シスメックス神戸アイスクャンパス他)

また、季節ごとに展示品を更新、作品の入れ替える作業も道行く人と人との交流を生むきっかけをつくる。



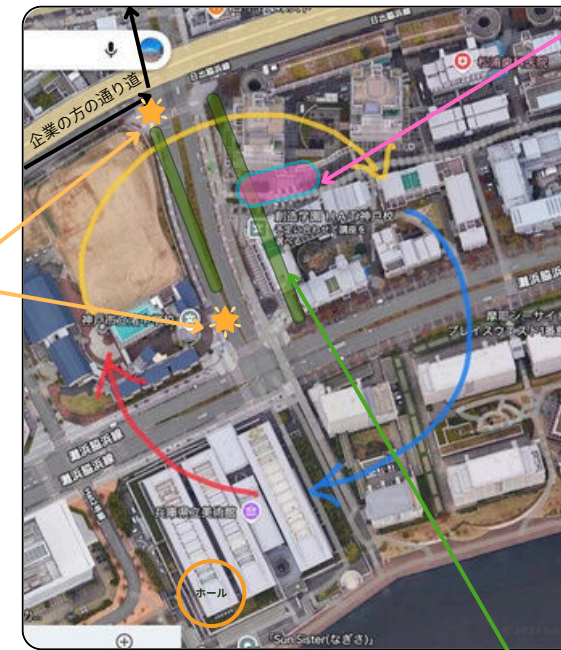
## ○循環型ライブペインティングスペース

渚中学校前に、完成作品を固定展示せず、定期的なライブペインティングやスプレーアートにより更新される常設アート面を設置。アーティストや地元中学生、デザインを学ぶ学生が参加し、イベントごとに新しい板を重ねて設置、その都度ライブペインティングを実施する。描く行為そのものが風景となる。

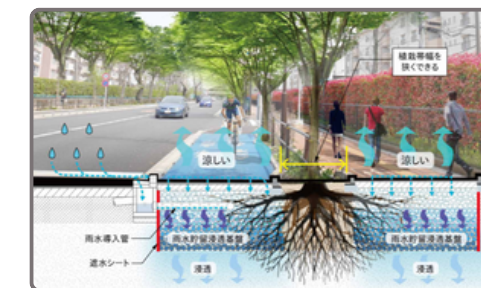
※渋谷駅西口の工事仮囲いで実施されたライブペイント・アートプロジェクト



○企業と地域をつなぐ展示運営  
展示スペースの設置・運営は、神戸三宮バス停に導入されている「エムシードゥコー(MCDecaux)」の広告事業モデルを参考にスポンサー型の仕組みを想定。パーゴラや展示面の一部への企業名掲載などを通じて、文化・教育を支援いただくかたち。



●「KOBÉ WOOD」循環型木製パーゴラ  
整備や街路樹の剪定で生じる木材の端材「KOBÉ WOOD」を活用。屋根部分は端材をつなぎ合わせ薄板状のパネルとして加工しデザインは学生・企業に公募。  
予め使用期間と交換時期を設定し役目を終えた木材は再利用・再加工へと循環させる(神戸市在住: 樹木医さん)



●温度低減、CO2削減を考慮した水循環  
連続した豊かな緑は自然を取り戻す空間造りにつながり、四季の移ろいは芸術への感性を高めるきっかけになる。

